

ベトナム科学アカデミー環境技術研究所(VAST-IET)との学術交流協定

北九州市立大学 国際環境工学部 エネルギー循環化学科 教授 門上 希和夫

1. はじめに

現在のベトナムは、高度経済成長が始まった昭和30年代の日本に似ている。地方にはのどかな田園風景が広がっている一方、ハノイやホーチミンでは道路や下水道などの社会基盤整備が遅れているため、バイクが道路を埋め、河川は廃水で真っ黒で悪臭を発している。今後の工業発展、都市の拡大、豊かな生活に伴い、廃水、排気ガス、廃棄物により環境汚染が一層進行するであろう。我々は、北九州市の経験を伝え、環境汚染問題に共同で取り組むことを目的として、VAST-IETと学術交流協定を締結した。



2. 現在の取り組み

学術交流の目的は、(1)ベトナムの環境汚染実態の把握と対策の検討、(2)日本の技術移転およびベトナムに適した技術の開発、(3)日越の若手研究者・技術者の育成、の3つである。環境分析では本学が持つ1500物質の網羅分析法や協力機関である国立環境研究所のバイオアッセイ技術を移転している。共同で実施した環境汚染調査の結果、ベトナムの環境は日本と同じ物質で汚染されており、汚染の国際化も進んでいることが確認されている。対策技術では下水汚泥からバイオエネルギーの回収技術の共同開発などを実施している。人材育成では、VAST-IETから2名の研究員を本学大学院の修士・博士課程の学生として教育すると共に、毎年数名の研究員を招聘している。また、本学からも毎年2回程度日本人修士学生をベトナムに派遣して環境調査と海外経験を積ませている。

3. 今後の方向

北九州市が公害克服から学んだものは、環境改善には産学官民の協力が不可欠と言うことである。学術分野の協力だけでなく、民間企業や公的機関を巻き込み、ベトナムに適した対策技術の共同開発、市民を啓蒙することでベトナムの環境悪化を少しでも軽減すると共に、北九州市にもメリットが得られるようなウィンウィンの関係を築いていきたいと考えている。

プロフィール



門上 希和夫

Kiwao Kadokami

役職／教授

学位／博士(水産学)

学位授与機関／東京水産大学

研究分野・専門／環境化学、環境分析化学

主要研究テーマ／化学物質網羅分析用データベースの開発、網羅分析法開発、環境汚染調査

P R ・ その他／微量有害物質分析に取り組んでいます。開発済みのGC-MS向けの網羅分析用データベースは、市販品が全世界で活用されています。現在は、世界標準を目指して汎用性があり、多数の物質を登録したGC-MS向けのデータベースやLC-MS向けのデータベース開発に取り組んでいます。また、開発した手法を用いて国内だけでなく、海外(中国、ベトナム、オーストラリア、カンボジアなど)の環境汚染を調査しています。環境だけでなく、食品、医学、法医学、薬学など微量物質の分析に関するご相談をお待ちしています。

委員：環境省、福岡県、北九州市各種検討会委員、水環境学会、環境化学会理事・九州支部長など

連絡先

TEL 093-695-3739 FAX 093-695-3787

E-mail kadokami@kitakyu-u.ac.jp